

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-52219

(P2013-52219A)

(43) 公開日 平成25年3月21日(2013.3.21)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 5 D 1/00 (2006.01)	A 4 5 D 1/00 5 0 3 B	
	A 4 5 D 1/00 C	
	A 4 5 D 1/00 5 0 2 B	
	A 4 5 D 1/00 5 0 5 E	
	A 4 5 D 1/00 5 0 5 C	
審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 10 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2012-1660 (P2012-1660)	(71) 出願人	509003597
(22) 出願日	平成24年1月6日 (2012.1.6)		株式会社プランニング1
出願変更の表示	意願2011-19881 (D2011-19881) の変更	(74) 代理人	100081949
原出願日	平成23年9月1日 (2011.9.1)		弁理士 神保 欣正
		(72) 発明者	金谷 薫
			東京都港区芝浦四丁目19番1号株式会社プランニング1内

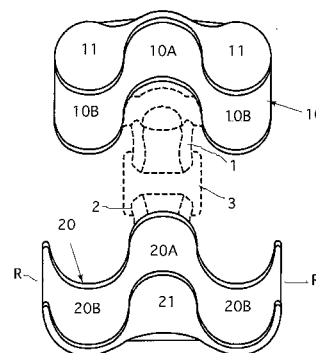
(54) 【発明の名称】 ヘアアイロン

(57) 【要約】

【課題】 一挙動でウェーブを付けることができるヘアアイロンを、髪の本根近くが折れ曲げられた状態で癖がつかないように実現する。

【解決手段】 開閉自在とした一対の加熱部を手で握って閉じることを可能としたヘアアイロンにおいて、中央の凹状半円加熱面10Aの両端に、左右の一対の凸状半円加熱面10B、10Bの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部10と、中央の凸状半円加熱面20Aの両端に、左右の一対の凹状半円加熱面20B、20Bの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凹状中央凸状加熱部20をもって一対の加熱部とし、左右凸状中央凹状加熱部の左右の一対の半円箇所の外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部の左右の一対の半円箇所の両端面R、Rに丸みを持たせる。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヒンジ部（3）をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部を手で握って閉じることを可能としたヘアーアイロンにおいて、中央の凹状半円加熱面（10A）の両端に、左右の一对の凸状半円加熱面（10B、10B）の内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部（10）と、中央の凸状半円加熱面（20A）の両端に、左右の一对の凹状半円加熱面（20B、20B）の内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する中央凸状加熱部（20）をもって一对の加熱部とし、これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部（10）の中央の凹状半円加熱面（10A）に左右凹状中央凸状加熱部（20）の中央の凸状半円加熱面（20A）が内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部（10）の左右の一对の凸状半円加熱面（10B、10B）に左右凹状中央凸状加熱部（20）の左右の一对の凹状半円加熱面（20B、20B）が外接するようにし、その際に左右凸状中央凹状加熱部（10）の左右の一对の凸状半円加熱面（10B、10B）の外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部（20）の左右の一对の凹状半円加熱面（20B、20B）の両端面（R、R）に丸みを持たせたことを特徴とするヘアーアイロン。

【請求項 2】

ヒンジ部（3）をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部を手で握って閉じることを可能としたヘアーアイロンにおいて、中央の凹状半円加熱面（10A）の両端に、左右の一对の凸状半円加熱面（10B、10B）の内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部（10）と、中央の凸状半円加熱面（20A）の両端に、左右の一对の凹状半円加熱面（20B、20B）の内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する中央凸状加熱部（20）をもって一对の加熱部とし、これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部（10）の中央の凹状半円加熱面（10A）に左右凹状中央凸状加熱部（20）の中央の凸状半円加熱面（20A）が内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部（10）の左右の一对の凸状半円加熱面（10B、10B）に左右凹状中央凸状加熱部（20）の左右の一对の凹状半円加熱面（20B、20B）が外接するようにし、左右凸状中央凹状加熱部（10）において、特に左右の一对の凸状半円加熱面（10B、10B）の裏面に肉厚部（11、11）を設けるとともに、左右凹状中央凸状加熱部（20）において、特に中央の凸状半円加熱面の裏面（20A）に肉厚部（21）を設けたことを特徴とするヘアーアイロン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は加熱により髪の毛にくせ付けを行ない、特にウェーブなどのスタイリングを実現するために使用するヘアーアイロンに関する。

【背景技術】

【0002】

電気加熱手段を備えたアイロン棒からグリップを延設すると共に、上記アイロン棒の表面に接離すべき押さえ板を設けた構成よりなるヘアーアイロンが公知である（特許文献1、2）。この種のヘアーアイロンは加熱したアイロン棒と押さえ板との間に髪の毛を挟んだ状態で、グリップを手で軸方向に回転させることによりアイロン棒に髪の毛を巻き付けて屈曲させ、アイロン棒による加熱によりカールやウェーブなどのくせ付けを行なう。

【0003】

一方、開閉可能に枢着された1対の腕体の先端部に、この腕体の開閉に伴って近接離反する毛髪挟持部がそれぞれ形成され、一方の毛髪挟持部に腕体の延在方向に延長して凹条が形成されると共に、他方の毛髪挟持部に腕体の延在方向に延長して凸条が形成され、前記凹条は、左右の側面と、この側面間にそれぞれ屈折角部を介して連続した底面とで形成されると共に、この底面に少なくとも1ヶ所以上の屈折角部が形成され、前記凸条は、左右の側面と、この側面間にそれぞれ屈折角部を介して連続した頂面とで形成されると共に

、この頂面に少なくとも１ヶ所以上の屈折角部が形成されて、前記凹条に噛み合うように形成されていることを特徴とするヘアーアイロンも公知である（特許文献３）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】実用新案登録第３１４７９１１号公報

【特許文献２】特開２００５－１９８９８４号公報

【特許文献３】実登３０７０４２６号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

10

【０００５】

前者の従来技術のヘアーアイロンはアイロン棒と押さえ板との間に髪の毛を挟んだ状態で、グリップを手で軸方向に回転させることにより髪の毛を巻き付けて使用に供されるので、大きめの緩めのウェーブなどのスタイリングを実現するためにはそれ相応の技術が必要となった。また、アイロン棒は高熱となるので、それを直接手で握って操作することはできなかった。

【０００６】

これに対し、後者の従来技術のヘアーアイロンは一挙動でウェーブを付けることが可能となるが、凸状と凹状の連続部を角状としているのでウェーブのつなぎ目において髪の毛の根本近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれがあった。また、両端部において凸状に噛み合う凹状の端部が角部を構成しているために、この箇所では髪の毛の根本近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれが特にあった。

20

【課題を解決するための手段】

【０００７】

この発明は前記の問題を解消したヘアーアイロンを提供することを目的としたものである。すなわち、この発明においては、ヒンジ部３をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部を手で握って閉じることを可能としたヘアーアイロンにおいて、中央の凹状半円加熱面１０Ａの両端に、左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部１０と、中央の凸状半円加熱面２０Ａの両端に、左右の一对の凹状半円加熱面２０Ｂ、２０Ｂの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凹状中央凸状加熱部２０をもって一对の加熱部とし、これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部１０の中央の凹状半円加熱面１０Ａに左右凹状中央凸状加熱部２０の中央の凸状半円加熱面２０Ａが内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部１０の左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂに左右凹状中央凸状加熱部２０の左右の一对の凹状半円加熱面２０Ｂ、２０Ｂが外接するようにし、その際に左右凸状中央凹状加熱部１０の左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂの外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部２０の左右の一对の凹状半円加熱面２０Ｂ、２０Ｂの両端面Ｒ、Ｒに丸みを持たせたことを特徴とする。

30

【０００８】

また、請求項２に記載の発明においては、前記のヘアーアイロンにおいて、左右凸状中央凹状加熱部１０において、特に左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂの裏面に肉厚部１１、１１を設けるとともに、左右凹状中央凸状加熱部２０において、特に中央の凸状半円加熱面の裏面２０Ａに肉厚部２１を設けたことを特徴とする。

40

【発明の効果】

【０００９】

この発明においては、ウェーブ状のくせをつけるための加熱部がアイロン棒でなく、ウェーブ状となっており、具体的には中央の凹状半円箇所両端部に、左右の一对の凸状半円箇所内側端部を連続させてウェーブ状とした左右凸状中央凹状加熱部と、中央の凸状半円箇所両端部に、左右の一对の凹状半円箇所内側端部を連続させてウェーブ状とした左右凹状中央凸状加熱部としている。よって、前記後者の従来技術のヘアーアイロンに

50

おけるような中途の角状部が存しないので、ウェーブのつなぎ目において髪の本根近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれがない。

【0010】

また、左右凸状中央凹状加熱部の左右の一对の半円箇所の外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部の左右の一对の半円箇所の両端面に丸みを持たせている。よって、前記後者の従来技術のヘアーアイロンにおけるような両端部において凸状に噛み合う凹状の端部の角部が存しないので、この箇所で髪の本根近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれがない。特にこの箇所を加熱部を閉じた状態で上に引き上げた際に挟んだ髪の毛に大きな力が加わる部分なので丸みを持たせたことによる効果は大きい。

【0011】

また、請求項2の発明のように、左右凸状中央凹状加熱部の裏面に、特に左右の一对の凸状半円箇所の裏面が肉厚となるカバー体を設けるとともに、左右凹状中央凸状加熱部の裏面に、特に中央の凸状半円箇所の裏面が肉厚となるカバー体を設けた場合は、加熱面からの熱はカバー体により緩衝されるので、開閉する加熱部を直接手で握って閉じることができ、アイロンによるくせ付け操作がより容易となる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】この発明のヘアーアイロンの左側面図。

【図2】同上、右側面図。

【図3】同上、平面方向から観察した斜視図。

【図4】同上、底面方向から観察した斜視図。

【図5】同上、加熱部を開いた状態の左側面図。

【図6】同上、加熱部を開いた状態の平面方向から観察した斜視図。

【図7】同上、加熱部を開いた状態の底面方向から観察した斜視図。

【図8】同上、正面図。

【図9】同上、平面図。

【図10】同上、底面図。

【発明を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、この発明の具体的実施例を添付図面に基づいて説明する。図7はこの発明のヘアーアイロンの全体を示す図である。このヘアーアイロンはヒンジ部3をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部10、20を手で握って閉じることにより髪の毛を加熱しながら挟持して髪の毛にウェーブ状のくせをつける機能を有する。

【0014】

前記の加熱部10、20の加熱面はウェーブ状に構成される。すなわち、加熱部10は中央の凹状半円加熱面10Aの両端に、左右の一对の凸状半円加熱面10B、10Bの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部10であり、加熱部20は中央の凸状半円加熱面20Aの両端に、左右の一对の凹状半円加熱面20B、20Bの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凹状中央凸状加熱部20である（図1、5参照）。

【0015】

これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部10の中央の凹状半円加熱面10Aに左右凹状中央凸状加熱部20の中央の凸状半円加熱面20Aが内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部10の左右の一对の凸状半円加熱面10B、10Bに左右凹状中央凸状加熱部20の左右の一对の凹状半円加熱面20B、20Bが外接するように構成される。そして、その際に左右凸状中央凹状加熱部10の左右の一对の凸状半円加熱面10B、10Bの外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部20の左右の一对の凹状半円加熱面20B、20Bの両端面R、Rに丸みを持たされる。

【0016】

また、左右凸状中央凹状加熱部10において、特に左右の一对の凸状半円加熱面10B

10

20

30

40

50

、10Bの裏面に肉厚部11、11が設けられるとともに、左右凹状中央凸状加熱部20において、特に中央の凸状半円加熱面の裏面20Aに肉厚部21が設けられる。

【0017】

図中符号、12、22はそれぞれ一对の加熱部10、20を手で握って閉じた際に指先があたる箇所である。

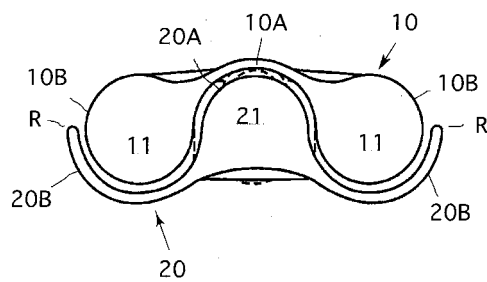
【符号の説明】

【0018】

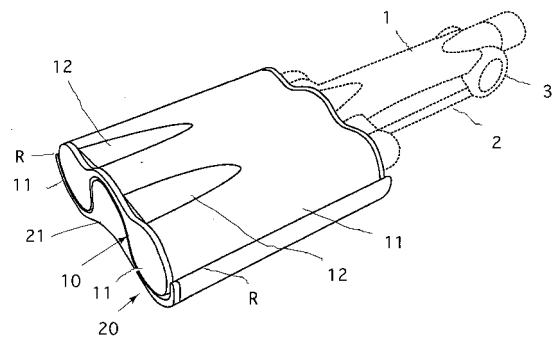
10	左右凸状中央凹状加熱部
10A	凹状半円加熱面
10B	凸状半円加熱面
20	左右凹状中央凸状加熱部
20A	凸状半円加熱面
20B	凹状半円加熱面
R	両端面

10

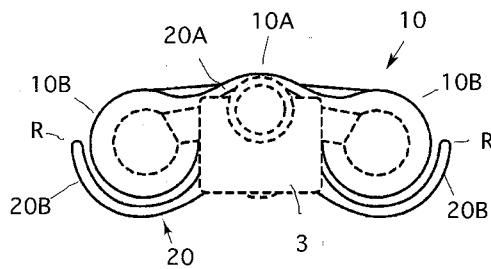
【図1】



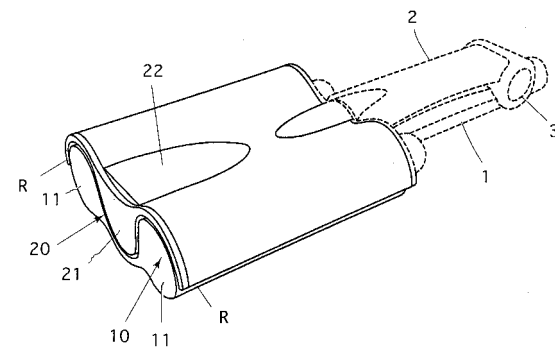
【図3】



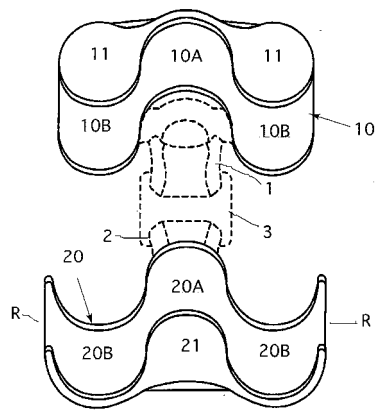
【図2】



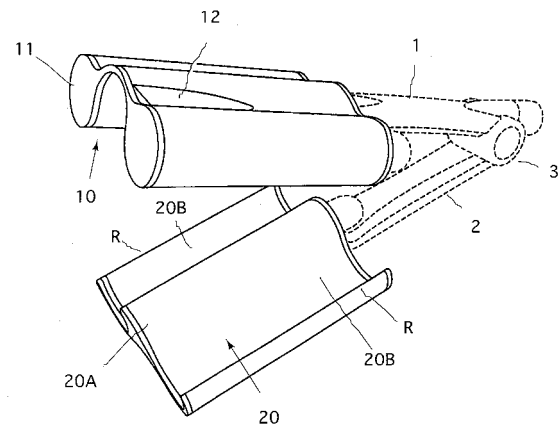
【図4】



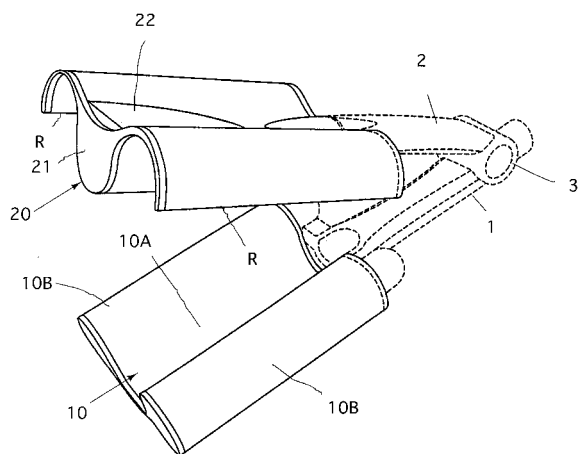
【図 5】



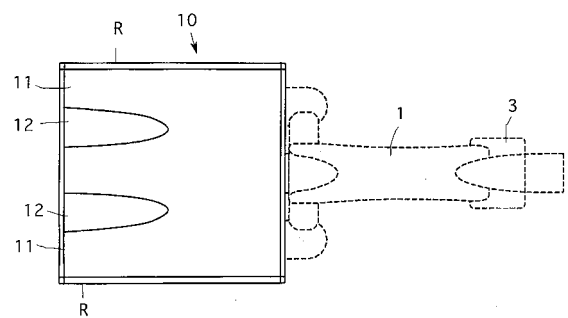
【図 6】



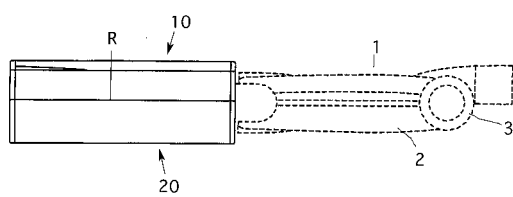
【図 7】



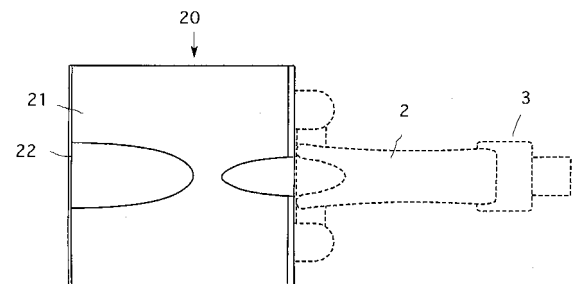
【図 9】



【図 8】



【図 10】



【手続補正書】

【提出日】平成24年1月7日(2012.1.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ヒンジ部(3)をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部を手で握って閉じることを可能としたヘアーアイロンにおいて、中央の凹状半円加熱面(10A)の両端に、左右の一对の凸状半円加熱面(10B、10B)の内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部(10)と、中央の凸状半円加熱面(20A)の両端に、左右の一对の凹状半円加熱面(20B、20B)の内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する中央凸状加熱部(20)をもって一对の加熱部とし、これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部(10)の中央の凹状半円加熱面(10A)に左右凹状中央凸状加熱部(20)の中央の凸状半円加熱面(20A)が内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部(10)の左右の一对の凸状半円加熱面(10B、10B)に左右凹状中央凸状加熱部(20)の左右の一对の凹状半円加熱面(20B、20B)が外接するようにし、その際に左右凸状中央凹状加熱部(10)の左右の一对の凸状半円加熱面(10B、10B)の外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部(20)の左右の一对の凹状半円加熱面(20B、20B)の両端面(R、R)に丸みを持たせたことを特徴とするヘアーアイロン。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は加熱により髪の毛にくせ付けを行ない、特にウェーブなどのスタイリングを実現するために使用するヘアーアイロンに関する。

【背景技術】

【0002】

電気加熱手段を備えたアイロン棒からグリップを延設すると共に、上記アイロン棒の表面に接離すべき押さえ板を設けた構成よりなるヘアーアイロンが公知である(特許文献1、2)。この種のヘアーアイロンは加熱したアイロン棒と押さえ板との間に髪の毛を挟んだ状態で、グリップを手で軸方向に回転させることによりアイロン棒に髪の毛を巻き付けて屈曲させ、アイロン棒による加熱によりカールやウェーブなどのくせ付けを行なう。

【0003】

一方、開閉可能に枢着された1対の腕体の先端部に、この腕体の開閉に伴って近接離反する毛髪挟持部がそれぞれ形成され、一方の毛髪挟持部に腕体の延在方向に延長して凹条が形成されると共に、他方の毛髪挟持部に腕体の延在方向に延長して凸条が形成され、前記凹条は、左右の側面と、この側面間にそれぞれ屈折角部を介して連続した底面とで形成されると共に、この底面に少なくとも1ヶ所以上の屈折角部が形成され、前記凸条は、左右の側面と、この側面間にそれぞれ屈折角部を介して連続した頂面とで形成されると共に、この頂面に少なくとも1ヶ所以上の屈折角部が形成されて、前記凹条に噛み合うように形成されていることを特徴とするヘアーアイロンも公知である(特許文献3)。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】実用新案登録第3147911号公報

【特許文献2】特開2005-198984号公報

【特許文献3】実登3070426号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

前者の従来技術のヘアーアイロンはアイロン棒と押さえ板との間に髪の毛を挟んだ状態で、グリップを手で軸方向に回転させることにより髪の毛を巻き付けて使用に供されるので、大きめの緩めのウェーブなどのスタイリングを実現するためにはそれ相応の技術が必要となった。また、アイロン棒は高熱となるので、それを直接手で握って操作することはできなかった。

【0006】

これに対し、後者の従来技術のヘアーアイロンは一挙動でウェーブを付けることが可能となるが、凸状と凹状の連続部を角状としているのでウェーブのつなぎ目において髪の毛の根本近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれがあった。また、両端部において凸状に噛み合う凹状の端部が角部を構成しているために、この箇所では髪の毛の根本近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれが特にあった。

【課題を解決するための手段】

【0007】

この発明は前記の問題を解消したヘアーアイロンを提供することを目的としたものである。すなわち、この発明においては、ヒンジ部3をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部を手で握って閉じることを可能としたヘアーアイロンにおいて、中央の凹状半円加熱面10Aの両端に、左右の一对の凸状半円加熱面10B、10Bの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部10と、中央の凸状半円加熱面20Aの両端に、左右の一对の凹状半円加熱面20B、20Bの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凹状中央凸状加熱部20をもって一对の加熱部とし、これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部10の中央の凹状半円加熱面10Aに左右凹状中央凸状加熱部20の中央の凸状半円加熱面20Aが内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部10の左右の一对の凸状半円加熱面10B、10Bに左右凹状中央凸状加熱部20の左右の一对の凹状半円加熱面20B、20Bが外接するようにし、その際に左右凸状中央凹状加熱部10の左右の一对の凸状半円加熱面10B、10Bの外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部20の左右の一对の凹状半円加熱面20B、20Bの両端面R、Rに丸みを持たせたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

この発明においては、ウェーブ状のくせをつけるための加熱部がアイロン棒でなく、ウェーブ状となっており、具体的には中央の凹状半円箇所の両端部に、左右の一对の凸状半円箇所の内側端部を連続させてウェーブ状とした左右凸状中央凹状加熱部と、中央の凸状半円箇所の両端部に、左右の一对の凹状半円箇所の内側端部を連続させてウェーブ状とした左右凹状中央凸状加熱部としている。よって、前記後者の従来技術のヘアーアイロンにおけるような中途の角状部が存しないので、ウェーブのつなぎ目において髪の毛の根本近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれがない。

【0009】

また、左右凸状中央凹状加熱部の左右の一对の半円箇所の外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部の左右の一对の半円箇所の両端面に丸みを持たせている。よって、前記後者の従来技術のヘアーアイロンにおけるような両端部において凸状に噛み合う凹状の端部の角部が存しないので、この箇所では髪の毛の根本近くが折れ曲げられた状態で癖がつくおそれがない。特にこの箇所を加熱部を閉じた状態で上に引き上げた際に挟んだ髪の毛に大きな力

が加わる部分なので丸みを持たせたことによる効果は大きい。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】この発明のヘアーアイロンの左側面図。

【図２】同上、右側面図。

【図３】同上、平面方向から観察した斜視図。

【図４】同上、底面方向から観察した斜視図。

【図５】同上、加熱部を開いた状態の左側面図。

【図６】同上、加熱部を開いた状態の平面方向から観察した斜視図。

【図７】同上、加熱部を開いた状態の底面方向から観察した斜視図。

【図８】同上、正面図。

【図９】同上、平面図。

【図１０】同上、底面図。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１１】

以下、この発明の具体的実施例を添付図面に基づいて説明する。図７はこの発明のヘアーアイロンの全体を示す図である。このヘアーアイロンはヒンジ部３をもって鰐口状に開閉自在とした一对の加熱部１０、２０を手で握って閉じることにより髪の毛を加熱しながら挟持して髪の毛にウェーブ状のくせをつける機能を有する。

【００１２】

前記の加熱部１０、２０の加熱面はウェーブ状に構成される。すなわち、加熱部１０は中央の凹状半円加熱面１０Ａの両端に、左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凸状中央凹状加熱部１０であり、加熱部２０は中央の凸状半円加熱面２０Ａの両端に、左右の一对の凹状半円加熱面２０Ｂ、２０Ｂの内側端を連続させてウェーブ状とした加熱面を有する左右凹状中央凸状加熱部２０である（図１、５参照）。

【００１３】

これらの加熱部は閉じたときに左右凸状中央凹状加熱部１０の中央の凹状半円加熱面１０Ａに左右凹状中央凸状加熱部２０の中央の凸状半円加熱面２０Ａが内接するとともに、左右凸状中央凹状加熱部１０の左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂに左右凹状中央凸状加熱部２０の左右の一对の凹状半円加熱面２０Ｂ、２０Ｂが外接するように構成される。そして、その際に左右凸状中央凹状加熱部１０の左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂの外側に外接される左右凹状中央凸状加熱部２０の左右の一对の凹状半円加熱面２０Ｂ、２０Ｂの両端面Ｒ、Ｒに丸みを持たされる。

【００１４】

また、左右凸状中央凹状加熱部１０において、特に左右の一对の凸状半円加熱面１０Ｂ、１０Ｂの裏面に肉厚部１１、１１が設けられるとともに、左右凹状中央凸状加熱部２０において、特に中央の凸状半円加熱面の裏面２０Ａに肉厚部２１が設けられる。

【００１５】

図中符号、１２、２２はそれぞれ一对の加熱部１０、２０を手で握って閉じた際に指先があたる箇所である。

【符号の説明】

【００１６】

１０	左右凸状中央凹状加熱部
１０Ａ	凹状半円加熱面
１０Ｂ	凸状半円加熱面
２０	左右凹状中央凸状加熱部
２０Ａ	凸状半円加熱面
２０Ｂ	凹状半円加熱面
Ｒ	両端面

フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

A 4 5 D 1/00 5 0 6 B